

平成30年9月29日(土)

ゴルフ会員権値上がり

8月5.6%高法人需要回復

ゴルフ会員権の価格上昇が鮮明だ。企業業績の回復を背景に、個人富裕層だけでなく、リーマン・ショック以降落ち込んでいた法人の買いが回復。名門コースなど高価格帯の需要をけん引する。値上がりが続くとみた投資目的の買いも一部で入り、株価に対し出遅れていた会員権相場を押し上げる。日経平均株価との連動性も戻り始めた。

関東ゴルフ会員権取引 万7千円。14カ月連続で業協同組合(東京・千代田)がまとめた関東圏の単価の高い名門・準名門コースの上昇が相場を押し上げる。桜ゴルフ(東京・中央)によると、小

金井カントリー倶楽部(東京都小平市)は4300万円と前月比100万円上がった。法人需要が戻った。会員権取引を手掛けるゴルフ

フットライン(東京・豊島)の南場賢代表取締役は「昨年末から法人の買いが顕著に増えた」と話す。8月の注文は前年同月比で3割増えた。業績回復と株高が重なり企業の購入意欲は強く、17年以降の値上がり基調を支えている。国税庁によると、2016年度の企業の交際費などの支出額は3兆6270億円と5年連続で増えた。

手建設会社も「業績の回復が主要因。接待の機会も増えた」と打ち明ける。年間800万円まで交際費を損金計上できる特例措置が18年度以降も延長され、中小企業の買いも目立つ。プレー代や飲食費が対象になる。「企業の成長で顧客への接待が必要になったとの声が多い」(桜ゴルフの追崎昌宏店頭営業部長)

リゾート会員権も上昇

リゾート会員権も値上がりしている。株式相場の上昇などで個人の富裕層の需要が旺盛だ。販売仲介のe会員権(横浜市)がまとめた8月の平均市場価格は、274万円と前月比5%上がった。値上がりは3カ月連続。前年同月比でも3カ月連続で高くなった。

投資マネーも流入しているようだ。値上がりに転じたものの関東の主要コースの平均価格はリーマン・ショック前の高値の3割の水準にとどまる。三菱UFJモルガン・スタンレー証券景気循環研究所の嶋中雄二所長は「再び投資運用先として着目される面もある。株価との連動性が戻りつつある」と指摘する。



相場上昇のけん引は名門コースが中心(東京都小平市の小金井カントリー倶楽部)



桜ゴルフの佐川八重子社長は「一度会員権を手放した企業が、最近の好業績で買い戻す例が多い」と話す。名門コースの会員権を買ったある大

300万円を超える高額商品の人気が高い。東急不動産の東急ハーヴェストクラブ熱海伊豆山(静岡県熱海市)は97

「開業前に9割近くの販売を終えた」(会員権販売を手掛ける東急リゾートの伊藤英明社長)。購入者の25%は買い増しという。